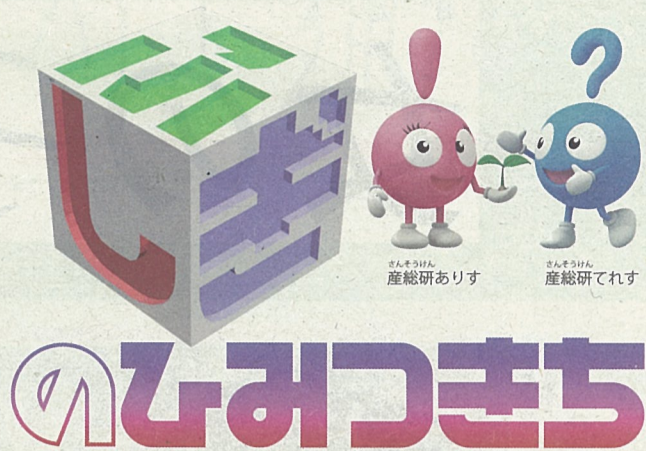


今回のテーマ

理想のクルマ を未来へ



No.043

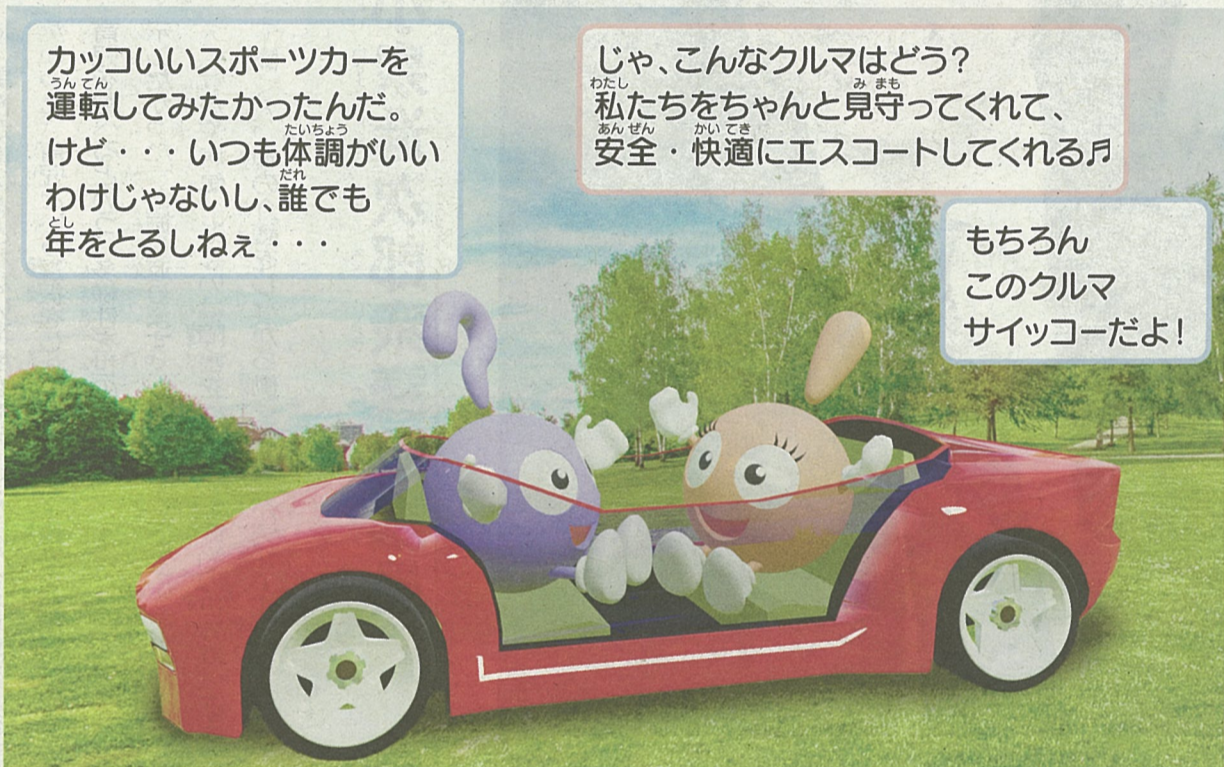
人を見守り、助け、気持ちを穏やかに包んでくれる技術がやってくることを願っています。

読んでくれているみんなが、おじいちゃんやおばあちゃんになる頃には、いろんなセンサーやAI（人工知能）が進歩して、運転手のいないクルマに乗っているかもしれません。クルマを自動で動かせる技術は、交通事故をなくすためだけでなく、乗っている人たちを見守る技術でもあってほしいですね。

乗り物酔いや急病で苦しむ人を見つけて運行スタッフに知らせてくれる、スタッフの体調が良くないときには早めの交代を勧めてくれる——。バスのような公共の乗り物では、そんなモニタリング（監視）技術が安全・安心につながります。

◇ドライバー見守る技術

長距離を走る大型トラックなどでは、ドライバーの眠気や脇見運転（運転中に前方から目をそらしてしまうこと）などを見つけて注意するために、カメラなどによるモニタリング装置が使われています。ドライバー



カッコいいスポーツカーを運転してみたかったんだ。けど・・・いつも体調がいいわけじゃないし、誰でも年をとるしねえ・・・

じゃ、こんなクルマはどう？ 私たちをちゃんと見守ってくれて、安全・快適にエスコートしてくれる車

もちろんこのクルマサイコーだよ！

の状況を今よりもさらに正確に判定するためにはどうすればいいのでしょうか。例えば、医師は患者の顔色や動作を観察し、聴診器を当てて分かった音などを総合的に判断して診断します。同じように、いろいろな種類のセンサーから得た情報が役立ちます。また、人がいなくてAIの自動判定に頼る場合は、一つのセンサーに不具合があつて

も、それを補うセンサーがあれば問題が起こりません。これからのモニタリング装置には、体の動きや呼吸、脈拍などのセンサーも必要と考えます。産業技術総合研究所では座席シートに埋め込むことのできるセンサーを開発しています。

◇思い描くクルマの未来

私が夢見る未来は、持病や障

害のある人、お年寄りが一人でも安心して乗車できて、目的地まで寄り添ってくれるクルマが普及した穏やかな日常です。ときには、「今日は仕事を休んで海に行きましょう♪」と、さりげなく気遣ってくれるクルマがあると最高です。

あなたにとって理想のクルマは何ですか？ 答えは人それぞれ違っていいのです。

今日の先生



長瀬智美さん

「材料科学の博士です。雲を眺めるのが好きです。息子にも小学校に行けなかった頃に勧めました」

産業技術総合研究所（産総研）センシングシステム研究センター。九州の拠点で圧電センサーを研究。出身小学校は山口県宇部市立恩田小。

さんそうけんって？

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国11か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブページはこちら →
（さんそうけんサイエンスタウン）

